

# よろこびの泉

わたし(イエス・キリスト)は、よみがえりです。いのちです。わたしを信じる者は、死んでも生きるのです。また、生きていてわたしを信じる者は、決して死ぬことはありません。(ヨハネ11:25-26)



▲桃の園

## 十字架と園

河野 進

イエスが十字架にかけられた所に  
一つの園があった (ヨハネ19・41)

ローマの兵士たちも踏み荒らせない園があった  
苦しみのある所には 和らぎの園がある  
悲しみのある所には 慰めの園がある  
病いのある所には 癒しの園がある  
暗黒のある所には 光の園がある  
死のある所には 復活の園がある

河野 進詩集「母よ、幸せにしてあげる」より

質問室 問、目指した大学に二浪して、三度目の挑戦で不合格なら諦めて就職すると父に約束。全力を尽くしたのにあと少し点が足りず……無念でした。出遅れた就職活動で自動車工場の組み立てラインで働き始めましたが、僕にとって不本意な職場です。納得のいく生きる道を探しています。



のガリラヤ湖で漁師をしていた。ある日、漁を終えて舟から下り、網を洗っているところにイエス・キリストが来られ、彼の舟に乗り込むと「陸から少しき出よう」と頼まれました。イエスは舟の上から群衆に語られた後「深みに漕ぎ出して、網をおろして魚をとりなさい。」と言われ、その時ペテロは「……夜通し働きましたが、

## 親と子のしあわせ 380



答、少年時代から夢を描いて勉強に励み、大学受験の壁に突き当たって初めて、大きな挫折を経験されたんですね。受験に失敗。それは辛い経験です。それで人生の敗北者になったと落胆されましたが、受験戦争の勝利者だけが成功ではありません。そこにこそ学ぶべき人生の貴重な教訓が隠されており、長い目で見れば、夢破れて失望の時こそ、新たな飛躍へのステップとなるチャンスがあるのです。これは聖書との出会いから始まります。あなたを必要として命を与えてくださった神様は、あなたの夢や計画より、さらに優れた計画をもって語りかけておられます。

三月は卒業の季節です。我が家では、長女が中学校を、次女が小学校を卒業します。彼女たちが、初めてランドセルを背負った日や、初めて制服を着た日を懐かしく思い出します。幼稚園でも卒園式が近づき、在園児も、それぞれ大きい組に進級することを楽しみにしています。

ある女の子は、入園した頃いつも「パパ、ママ」と言っていて泣いていました。先生が、「パパはお仕事よ」と言うと、「パパ、お仕事」と言うようになり、だんだん泣かなくなりました。お話しも上手になり、園での生活を

を楽しむようになりました。初めは一人遊びが多かったのですが、今では自分の方から「何してるの? 遊ぼう」と声をかけ、お友達といっしょに遊ぶ楽しさを学んでいます。一年余りの間に、大きく成長したと感じます。

しかしそんな子どもたちも、お母さんを見ると「だっこ」「いやだ。」などと言って甘えてきます。これも大切ですね。甘えることで、心のパワーをもらっているからです。

\*この「よろこびの泉」は、統一協会、エホバの証人、モルモン教のものではありません。これらの問題でお困りの方は、上記の教会にご連絡ください。

発行所 〒630-0266 奈良県生駒市門前町七一四〇 日本ミッシヨン 電話〇七四三(七三)一七五四 振替口座〇九〇二一六四三番

発行人 フアベイ・D 編集人 日本ミッシヨン編集部

印刷所 〒350-0303 埼玉県比企郡鳩山町熊井一七〇 新生宣教団印刷部 電話〇四九(二九六)〇七二七

一年分 送料共 八〇〇円 定価 一部 一五円

**道をつかさどられる神**  
 —人生の道草から救いと愛の道へ—

和歌山市 東山 好伸

妻の信仰(キリスト教)に対してあまり良い気持ちを持っていなかった私に、息子が引きこもりの中で苦悩する姿を通して、愛の神は、敬虔な畏れと信仰を与えて私を救い、息子を救ってくださったのです。



▲2015.11 義父を老人施設に見舞った時の写真  
 左端が長男・和弘、右端が私・好伸。5人の子どもは全員長男の子どもです。

ある夏の夕暮れ、JR和歌山駅に向かっていた私は、祈るような気持ちでした。その朝、息子が駅前へ一人で路上ライブに行くという話を聞いたからです。ひきこもり中の突然のチャレンジでした。駅に近づくと、聞き慣れたギターの音色と歌声が聞こえてきました。帰りを急ぐ人々がチャラツと横目を流しながら通り過ぎて行きます。一曲、二曲と聞いてから立ち去っていく人には頭が下がる思いで、私は遠目で様子を見ていました。息子は、声を振り絞って神の愛を歌っていました。その懸命な姿に、目頭が熱くなりました。心の中で声援を送り、私は気づかれないよう電車に乗りました。長い道のりでした。ほぼ7年、息子の社会的ひきこもり状態は続きました。

**息子の苦悩**

「お前に何度も殺された!」  
 ある日、息子の言葉に私は、大きなショックを受けました。その時点で、自分がそれほどまでに息子を傷つけていたとは思ってもせず、その一言が私の心に「くさっ」と突き刺さってきて、私はどうしていいかわかりませんでした。しかしよく考えれば、

息子に対する私の言葉や態度は、息子のことを心配しながらも、本当に思いやりと愛から出ていたものかどうかわかり、反省する必要があります。

その頃の私は、家族に対して「こうであってほしい」との期待感の押し付けや、思い通りにならないことへの苛立ち、人との比較など自分中心の思いが強く、それが息子の心を縛り、傷つけていることに気づかなかつたのです。

1995年6月、息子は専門学校卒業前に左足を骨折し、就職が決まらなまま翌3月卒業になりました。卒業後、息子は目標を見い出せず就職活動に取り組もうとはしませんでした。私は就職説明会やハローワークに行くことを何度も勧めましたが、2、3度行っただけで前に進む自信も気力もなく、そんな自分の精神的弱さと現実を知られたくない、認めたくない思い。そこにのしかかっていたのが、何のために生きていくのか? 何をしても死んだら終わりではないのか? という「生きる」ことへの疑問でした。希望のない人生を恨んだり、「ただ生きていくだけの意味のない人生を送るぐらいなら、早く死にたい」と考え始めた息子は、

家族と顔を合わせることをさえ辛くなったのです。

**クリスマス・イベントで**

「何で就職活動しないのか?」「いつまで怠けているのか?」との、思いやりを欠いた私の言葉や無言の圧力に耐えられず、次第に部屋から出なくなつて、やがて夜と昼が逆転していきました。ひきこもり状態になつて約半年は部屋に閉じこもつて、詩を書きギターを弾く生活が続いていました。ところがその冬、妻と娘が通っていた教会のクリスマス・イベントでギターを弾いて欲しいと誘われました。教会では、ありのままを受け入れてくれ、何も気にしないでバンド演奏できる安心感があつたようです。教会は息子にとって安心できる居場所になつていきました。2年後、「神様なんて絶対いない」と考えていた息子が、1997年6月教会で洗礼を受けクリスマスチャンになり、それが大きな転機となつていきました。

**私の証し**

前後して父親の私もその年の

**主のご復活をお祝い申し上げます。**

5月に洗礼を受けクリスマスチャンになったばかりでした。

私が洗礼を受ける十年ほど前に妻はクリスマスチャンになつていました。私は外国の宗教と反感してあまり快くは思っていま

**ギターを教えるまでに**

それでも、息子を「ありのまま受け入れる」作業は、決して簡単ではなく葛藤もあつたのですが、「あなたは高価で尊いわたしはあなたを愛している。」(イザヤ書43・4)との聖書のことばによって、私自身が少しずつ砕かれていき、家族が同じ価値観を土台にして話し合えるようになったことが変化につながりました。その後、息子との衝突は何度もありま

した。時には、涙とともに許し合い、少しずつ息子は解放されて、家族の中の孤立状態はなくなつていき、息子の行動に変化が起こつてきました。その一つが、駅前ライブ

だつたのです。彼は、ひきこもる中で心の奥から湧き出てくるものを吐き出すように作詩し、やがて作曲するまでになりました。どうしようもない自分の弱さを知って、「死にたい!」とまで考えた息子は、弱さも醜さもすべて受け止めてくれる大きな存在、神の愛を知つたことで、生きることに不安から解放され、その喜びを同じような不安を抱えて悩み苦しん

でいる人にも伝えたいと思つたようです。駅前ライブは、1年半続きました。家と教会だけの生活から、少しずつ行動範囲に広がりが出てきた頃、妻の知り合いに同じようにひきこもっている高校生がいることを聞いた息子は、その子の家に行き、ギターを教えるようにになりました。少しずつ小さな縄張りが増え、果立ちが近づいているかと期待を持ちました。

**心の寄り添いが得られて**

ところが、現実の社会は厳しく、卒業後の空白が大きく立ちはだかりました。息子から、履歴書の書き方を相談された時、「空白なんか気にせず正直に書いた方がいい」と答えましたが、本人は、運転免許もなく、何もしていなかつた自分には無理、ダメだと気持ちを萎えさせていました。恐る恐る第一歩を踏み

出そうとした、ある施設の面接で、「企業は君を回復させるためにあるのではない」と冷たく言われ出鼻をくじかれて現実を知らされたのでした。

そんな彼に、同じ価値観を共有していたクリスマスチャン女性が勇気と励ましを与え続けてくれました。ひきこもり中知り合った彼女は、数年間彼の心に寄り添い、支えとなつてくれました。そして、彼が就職するのをじつと見守ってくれたのです。息子にとつてその存在はとてつ大かつたと思います。二人は、息子が働くまでは直接会わずにいようと約束をして、アルバイト開始までの半年間実行しました。彼らの「愛」の証明期間だつ

たのでしようが、息子にとつては大きな励みでした。彼女の愛に支えられて、2003年1月、ひきこもりから7年目に社会人第一歩を踏み出し、アルバイト開始、一年半後に地元企業への就職を果たしました。

翌2005年、二人は結婚。そして現在、彼らには、神様の恵みで五人(三男二女)の子宝が与えられ、現在六人目がお腹に宿つており祝福された家庭を築いています。さらに息子は、採用された会社で重用された後、教会では牧師になるための訓練を受けて2015年4月、牧師として和歌山の教会に就任し神さまの御用をしています。

「神は……試練とともに、脱出の道も備えてくださいます。」(一コリント10・13)

喜び!クマさん 泉ゆ うあ ☆

暖冬だったので、クマさんもう3月だし、そろそろ動こうよ。

「タツから出られない!」

「だから、目を覚ましていなさい。」

「ママイ25:13」